

米海軍兵による 犯罪再発防止策について

在日米海軍司令部

これまでの米海軍の安心対策

- ・ 公共の場での飲酒規制
(午前2時～6時)
- ・ リバティーカードプログラム
- ・ 横須賀市民を安心させる為の
地域巡回プログラム
(パトロール体制: 70名以上
対象地域: 本町、汐入、横須賀中央
馬堀海岸、吉井)
- ・ 士官、上級兵曹が参加した繁華街に
おける見回り

- ・ 日本での生活・文化を理解するための
教育(新着任者)
- ・ 女性に対する暴力を抑止するための
徹底した教育
(上記の新着任者教育の特別プログラ
ム)
- ・ 基地内のテレビ、ラジオ、印刷媒体、
教育ビデオを利用した周知
- ・ ジョージ・ワシントンの乗組員や
ピュージェット・サウンド海軍造船所
の従業員及び彼らの家族に対しても
教育を実施



今回の事件で米海軍が直ちに取った対策(1)

(4月3日～7日)

- 夜間外出禁止措置(午後10時～午前6時)
- 公共の場における飲酒を24時間禁止

(4月7日から14日の間:午前零時～午前6時は公共の場における飲酒を禁止、4月14日以降は土・日の午前2時から6時までの飲酒を禁止)

- 米海軍横須賀基地内でのアルコール販売の禁止



今回の事件で米海軍が直ちに取った対策 (2)

- 米海軍兵による暴力抑止のための全体会議の開催
- 横須賀基地司令部の訓練担当分隊が、ジョージ・ワシントンに派遣され、文化教育に加え、交通教育及び犯罪抑止のための教育及びトレーニングを実施



今回の事件の問題点の検証

- 迅速な脱走兵に関する情報提供の欠如
- 暴力行為に対する意識の向上
- 潜在的な暴力的行為の早期発見のための過去の記録の検証とその可能な限りの対策
- 地域の繁華街におけるより効果的な防犯対策の検討



再発防止のための問題点とその対応

問題点

- 1 脱走兵の情報提供の在り方
- 2 暴力行為に対する意識の向上
- 3 潜在的な暴力的行為の早期発見のための過去の記録の検証とその可能な限りの対策
- 4 地域の繁華街におけるより効果的な防犯対策

対応策

- ・日米合同委員会合意の手続きに則り、米海軍の脱走兵情報を日本政府側へ提供
- ・在日米海軍における脱走時の連絡体制の徹底
- ・CAREプログラム
- ・凶器となりうる物の検査と管理方法の見直し
- ・繁華街の特定の飲食店への一時的立ち入り禁止措置(オフリミット)
特定期間のパトロールの増強

CARE プログラム –

“その仕組み”

C = 統合した
A = 反暴力
R = 反省
E = 教育



横須賀は我々の故郷でもある!

訓練と教育を
受ける



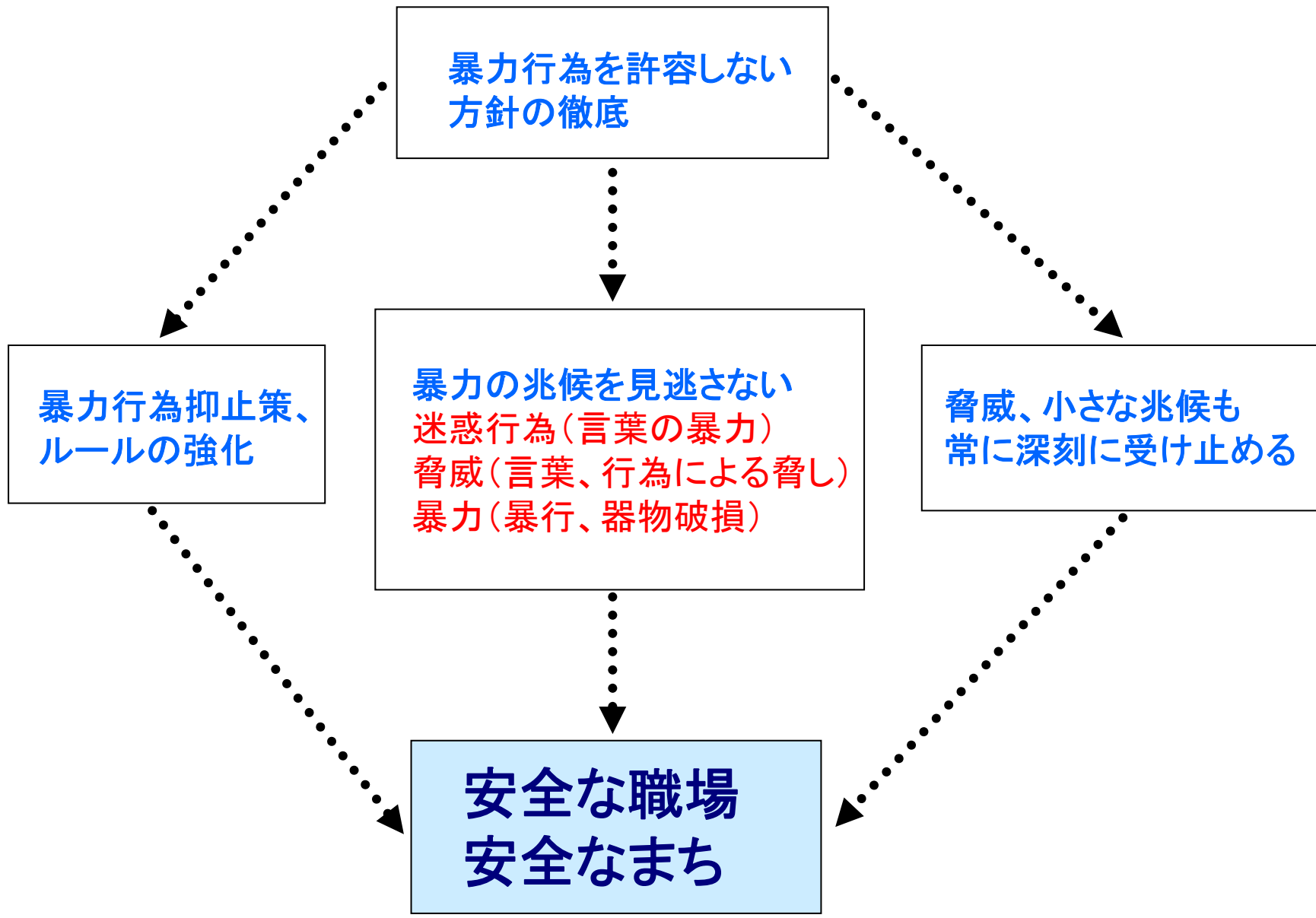
問題の認識と
発見



上司へ報告



問題解決へ向
けて対策、行
動する



暴力行為を許容しない
方針の徹底

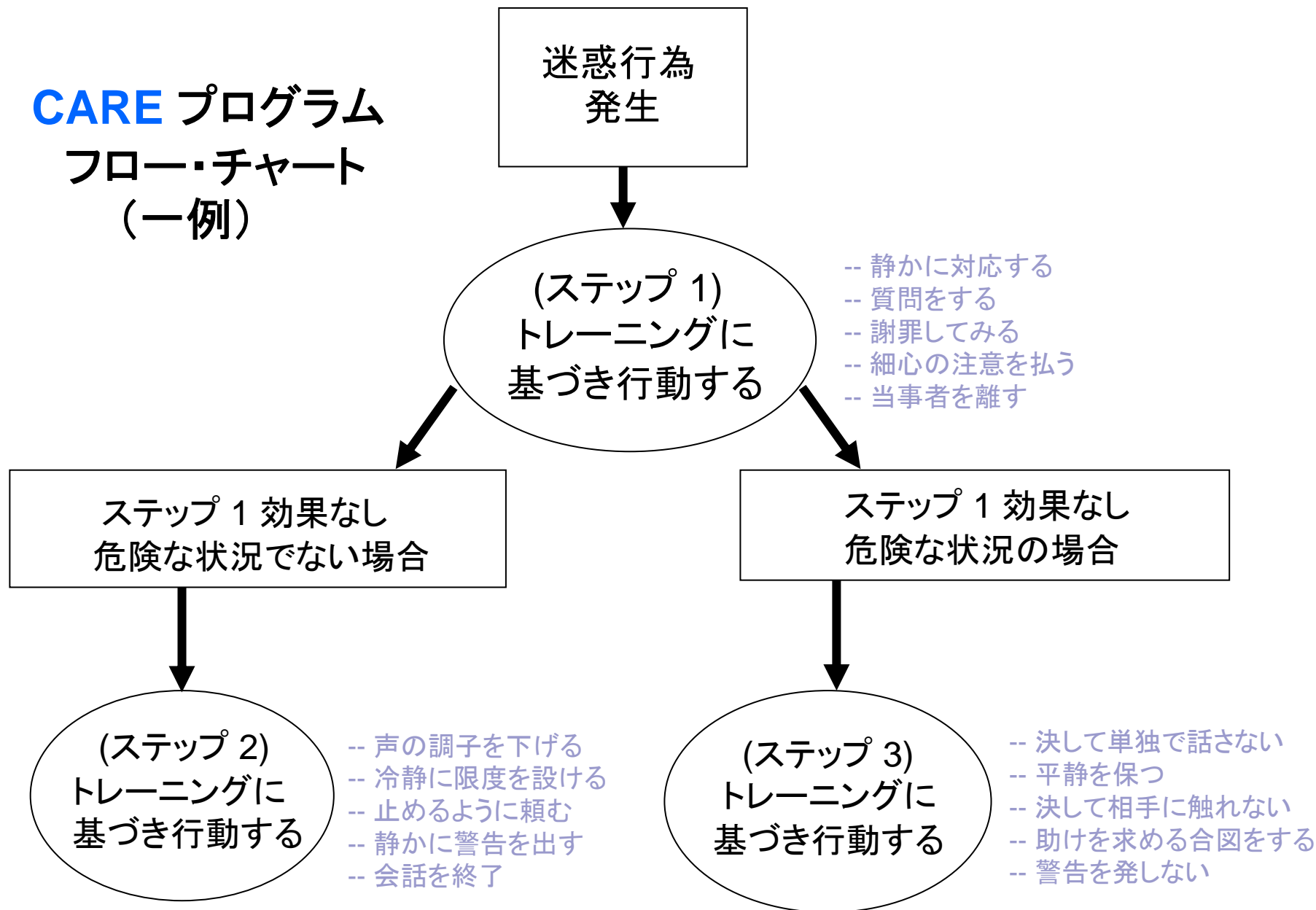
暴力行為抑止策、
ルールの強化

暴力の兆候を見逃さない
迷惑行為(言葉の暴力)
脅威(言葉、行為による脅し)
暴力(暴行、器物破損)

脅威、小さな兆候も
常に深刻に受け止める

安全な職場
安全なまち

CARE プログラム フロー・チャート (一例)



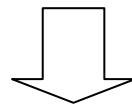


CAREプログラムの概要

■ 予 防

暴力に対する「許容ゼロ」政策を再び強調

米海軍第7艦隊と米海軍の全ての陸上部隊の上
司は、チェックシート(リーダーシップ・インジケー
ター)を利用して、部下の潜在的な暴力の兆候(イン
ジケーター)をチェックする。



問題がある場合には、サポートやカウンセリング



CAREプログラムの概要

■ 訓練

- ・反暴力の自覚を促す訓練をGTM(一般軍事訓練)計画に組み込み、常に実施
- ・起こりうる暴力的な状況をいかに打開するかを強調する事例研究やロール・プレイに参加するよう水兵を奨励
- ・各部隊は、CNFJホームページの「反暴力と危機対応チーム」のリンクに提供されている情報を議論、検討し、効果的な訓練を実施



CAREプログラム

今回、在日米海軍において策定したCAREプログラムは、さらに修正を重ねながら、中長期的には、反暴力のための予防・教育・訓練のプログラムとして、在日米軍にも提案していくものである。